

～重心動揺計（iTUG）を用いたフレイル患者における 転倒リスクについての検討～

2020年4月1日～2021年12月31日の間に当院のリハビリテーション部にて検査を受けた方

研究責任者 獨協医科大学日光医療センター 整形外科 教授 長田伝重

このたび当院では、上記のご病気で入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、研究責任者または分担者までご連絡をお願いします。

1. 研究の目的 及び 意義

高齢者の転倒による不慮の事故は大腿骨近位部骨折をはじめとした高齢者の骨折の主原因である（大高 2015）。高齢者における転倒のリスク因子としては、過去の転倒歴、バランス障害、筋力低下、糖尿病など複数の要因が挙げられる。近年では、転倒を予測するリスクファクターを早期に同定し、早期発見を目的とした二次予防が注目されている。一般的にサルコペニアやフレイルティなどが転倒要因として注目されており、特にFreire Juniorらは高齢者の歩幅、支持基底面、歩行速度、単脚支持や両脚支持の割合などが転倒の関連因子となると報告している。つまり、歩容が転倒予測に有用であると考えられる。

転倒の原因でもあるフレイルは可逆性であり、状態に応じた適切な介入により再び健常な状態に改善可能であると言われている。そのため、フレイルに陥った高齢者を早期に発見し、適切な介入を行う事で転倒予防ならびに生活機能の維持・向上につながる。当院において、整形外科疾患にてリハビリ通院中の対象者を評価し、より明確な転倒の要因の基準を明らかにする。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2020年4月1日～2021年12月31日の間に獨協医科大学日光医療センター リハビリテーション部において検査を受けた方を研究対象とします。

2) 研究実施期間

2020年4月1日 ～ 2023年12月31日

3) 研究方法

整形外科疾患でリハビリ通院中の方で、研究に必要な運動機能検査を受けた方を対象としています。通常の診療内容をデータとして使用させていただきます。収集したデータを解析し、転倒の予防や改善に役立てます。

4) 使用する試料・情報

研究に使用する試料・情報は下記のとおりです。

〈診療情報〉

A. 患者背景

年齢、性別、身長、体重、BMI、転倒歴の有無、既往歴

B. 質問票

ロコモ 25（25の質問項目を点数化）

C. 運動機能

iTUG、握力、膝伸展筋力、片脚立位保持時間、SPPB（Short Physical Performance Battery）

なお、患者さんの個人情報には削除し、匿名化して、プライバシー保護には細心の注意を払い、リハビリテーション部の研究室で厳重に管理されます。

5) 試料・情報の保存

本研究に使用した試料・情報は、研究発表後5年間保存し、匿名化した状態で紙データはシュレッダーし、電子データは完全に消去します。なお、保存した試料・情報を用いて新たな研究を行う際は、整形外科 外来窓口や待合室 病棟にポスターを掲示してお知らせします。

6) 研究計画書の開示

患者さんのご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

7) 研究成果の取扱い

この研究の成果は、患者さんのデータを個人情報がわからない形にした上で、学会や論文で発表する予定ですのでご了解ください。

8) 問い合わせ・連絡先

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先にお申し出ください。その場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様に不利益が生じることはありません。

問合せ先：獨協医科大学日光医療センター リハビリテーション部

理学療法士 松井 瞭友

電話：0288-23-7000（平日：9時00分～17時00分）

FAX：0288-23-5000

郵送先：〒321-1298 栃木県日光市森友 145-1